

# 3課

## キリストにおける一致

7月18日

安息日午後

7月11日

### 暗証聖句

さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ること一つにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。(Iコリント 1:10、口語訳)

さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心一つにし思い一つにして、固く結び合いなさい。(Iコリント 1:10、新共同訳)

### 今週の聖句

Iコリント 1:12～17、ローマ 1:29、Iコリント 1:10、Iコリント 3:1～4、  
フィリピ(ピリピ) 2:5～8、IIコリント 11:23～28、コロサイ 1:24

### 今週のテーマ

野生動物を観察する人なら、さまざまな大きさの群れや集団を作って生活する生き物がいることを知っています。(言うまでもなく)オオカミからイルカ、さらには軍隊アリに至るまで、これらの生き物は団結して生きています。特にチンパンジーは、結束の強い社会的絆で知られており、時には15頭から150頭の仲間と群れをなして暮らしています。しかし、そのような関係も常に仲むつまじいわけではなく、時には仲間同士で争うこともあります。

人間もまた、似たような存在です。集団で生活する傾向があるだけでなく、時にはその集団の中で争うこともあるのです。そしてそれは、私たちの教会の中でも現実起こっていることです。カリスマ性のある指導者を中心に派閥が生じます。さらに悪いことに、派閥間で争いが起こることもあります。

あなたの教会で、そのような光景を見たことがあるでしょうか。もし見たことがあるなら、パウロがコリントで直面した問題を理解できるでしょう。今週は、Iコリント1章から4章を見ていきます。使徒パウロはここで、教会内の争いという問題と、それをキリストにおける一致によってどのように克服すべきかを語っています。

コリントの信徒への手紙Ⅰ（コリント人への第一の手紙）の最初の4章を貫いているのは、「仲たがいをせず、心をつにし思いをつにして、固く結び合いなさい」〔口語訳「お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい」〕（Ⅰコリ 1:10）というパウロの訴えです。実際、ほとんどの学者は、一致こそがこの手紙のすべての部分を結びつける包括的な主題であることに同意しています。

問1 Ⅰコリント 1:12～17 を読んでください。この箇所は、地元の指導者の周りに派閥を作ることがいかに愚かであるかを理解するうえで、いかに役立ちますか。パウロの解決策は何でしたか。パウロはここで、どんな重要なことを述べていますか。

パウロは、コリントの教会員の間に一致がないことを、ギリシア語の「スキスマ」（「仲たがい（分争）」、Ⅰコリ 1:10）と「エリス」（「争い」、同 1:11）を用い、強い言葉で描写しています。新約聖書のほかの箇所では、名詞の「スキスマ」（および動詞の「スキズー」〔「分裂する」〕）が、派閥の原因となる意見の相違をあらわすために用いられています。同様に、名詞の「エリス」（「争い」）は、クリスチャンが行うべきでない悪徳のリストにしばしば登場します。

問2 ローマ 1:29、13:13、Ⅰコリント 3:3、Ⅱコリント 12:20、ガラテヤ 5:20 を読んでください。「エリス」（「不和」「争い」）と共に、ほかにどんな罪が挙げられていますか。このことは、「エリス」がいかに悪いものであるかということについて、私たちに何を教えてくれますか。

コリントの教会における不和は表面化し、互いに訴訟を起こすまでに至りました（Ⅰコリ 6:1～3）。パウロは、教会員同士のこうした訴訟について、「あなたがたを恥じ入らせるために、わたしは言っています」〔口語訳「わたしがこう言うのは、あなたがたをはずかしめるためである」〕（同 6:5）と告げています。実際、彼らは主の晩餐を祝うときでさえ、意見の相違を脇に置きませんでした（同 11:17～22）。

教会員の間の一致の欠如という問題は、非常に恐ろしいものであり、パウロはそれを深く憂慮しているため、コリントの信徒への手紙Ⅰ（コリント人への第一の手紙）では、この問題を最初に取り上げているのです。

Ⅰコリント 1:12～27 を読み直し、派閥が教会の一致にとって非常に危険であることを理解するうえで、この箇所がいかに役立つか、考えてみてください。

【参考】英語テキストにある全文

Read again 1 Corinthians 1:12–27. Then reflect on how this passage helps us understand why cliques are so dangerous to the unity of the church. What can your local church do in order to avoid this problem?

I コリント 1:12~27 を読み直し、派閥が教会の一致にとって非常に危険であることを理解するうえで、この箇所がいかに役立つか、考えてみてください。この問題を避けるために、あなたの所属する教会は何ができるでしょうか。

19

### I コリ 1:10~27 (新共同訳)

1:10 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心をつにし思いをつにして、固く結び合いなさい。

1:11 わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。

1:12 あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言いつけているとのことですよ。

1:13 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。

1:14 クリスポとガイオ以外に、あなたがたのだれにも洗礼を受けなかったことを、わたしは神に感謝しています。

1:15 だから、わたしの名によって洗礼を受けたなどと、だれも言えないはずです。

1:16 もっとも、ステファナの家の人たちにも洗礼を受けましたが、それ以外はだれにも授けた覚えはありません。

1:17 なぜなら、キリストがわたしを遣わされたのは、洗礼を授けるためではなく、福音を告げ知らせるためであり、しかも、キリストの十字架がむなしいものになってしまわぬように、言葉の知恵によらないで告げ知らせるためだからです。

1:18 十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、わたしたち救われる者には神の力です。

### I コリ 1:10~27 (口語訳)

1:10 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。

1:11 わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。

1:12 はっきり言うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケパに」「わたしはキリストに」と言いつけていることである。

1:13 キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。

1:14 わたしは感謝しているが、クリスポとガイオ以外には、あなたがたのうちのだれにも、バプテスマを授けたことがない。

1:15 それはあなたがたがわたしの名によってバプテスマを受けたのだと、だれにも言われることのないためである。

1:16 もっとも、ステパナの家の者たちには、バプテスマを授けたことがある。しかし、そのほかには、だれにも授けた覚えがない。

1:17 いったい、キリストがわたしをつかわされたのは、バプテスマを授けるためではなく、福音を宣べ伝えるためであり、しかも知恵の言葉を用いずに宣べ伝えるためであった。それは、キリストの十字架が無力なものになってしまわないためなのである。

1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 それは、こう書いてあるからです。  
「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、  
賢い者の賢さを意味のないものにする。」

1:20 知恵のある人はどこにいる。学者は  
どこにいる。この世の論者はどこにいる。  
神は世の知恵を愚かなものにされたでは  
ないか。

1:21 世は自分の知恵で神を知ることが  
できませんでした。それは神の知恵にか  
なっています。そこで神は、宣教という  
愚かな手段によって信じる者を救おう  
と、お考えになったのです。

1:22 ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア  
人は知恵を探しますが、

1:23 わたしたちは、十字架につけられた  
キリストを宣べ伝えています。すなわち、  
ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人  
には愚かなものですが、

1:24 ユダヤ人であろうがギリシア人であ  
ろうが、召された者には、神の力、神の  
知恵であるキリストを宣べ伝えている  
のです。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱  
さは人よりも強いからです。

1:26 兄弟たち、あなたがたが召された  
時のことを、思い起こしてみなさい。人  
間的に見て知恵のある者が多かったわけ  
ではなく、能力のある者や、家柄のよい  
者が多かったわけでもありません。

1:27 ところが、神は知恵ある者に恥をか  
かせるため、世の無学な者を選び、力あ  
る者に恥をかかせるため、世の無力な者  
を選ばれました。

**ロマ 1:29 (新共同訳)**

1:29 あらゆる不義、悪、むさぼり、悪意  
に満ち、ねたみ、殺意、不和、欺き、邪  
念にあふれ、陰口を言い、

**ロマ 13:13 (新共同訳)**

13:13 日中を歩むように、品位をもって  
歩もうではありませんか。酒宴と酩酊、  
淫乱と好色、争いとねたみを捨て、

**I コリ 3:3 (新共同訳)**

3:3 相変わらず肉の人だからです。お互  
いの間にねたみや争いが絶えない以上、  
あなたがたは肉の人であり、ただの人と  
して歩んでいる、ということになりはし

1:19 すなわち、聖書に、「わたしは知者  
の知恵を滅ぼし、賢い者の賢さをむなし  
いものにする」と書いてある。

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこに  
いるか。この世の論者はどこにいるか。  
神はこの世の知恵を、愚かにされたでは  
ないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を  
認めるに至らなかった。それは、神の知  
恵にかなっている。そこで神は、宣教の  
愚かさによって、信じる者を救うことと  
されたのである。

1:22 ユダヤ人はしるしを請い、ギリシア  
人は知恵を求める。

1:23 しかしわたしたちは、十字架につけ  
られたキリストを宣べ伝える。このキリ  
ストは、ユダヤ人にはつまずかせるもの、  
異邦人には愚かなものであるが、

1:24 召された者自身にとっては、ユダヤ  
人にもギリシア人にも、神の力、神の知  
恵たるキリストなのである。

1:25 神の愚かさは人よりも賢く、神の弱  
さは人よりも強いからである。

1:26 兄弟たちよ。あなたがたが召された  
時のことを考えてみるがよい。人間的に  
は、知恵のある者が多くはなく、権力の  
ある者も多くはなく、身分の高い者も多  
くはない。

1:27 それなのに神は、知者はずかしめ  
るために、この世の愚かな者を選び、強  
い者はずかしめるために、この世の弱  
い者を選ぶ、

**ロマ 1:29 (口語訳)**

1:29 すなわち、彼らは、あらゆる不義と  
悪と貪欲と悪意とにあふれ、ねたみと殺  
意と争いと詐欺と悪念とに満ち、また、  
ざん言する者、

**ロマ 13:13 (口語訳)**

13:13 そして、宴楽と泥酔、淫乱と好色、  
争いとねたみを捨てて、昼歩くように、  
つつましく歩こうではないか。

**I コリ 3:3 (口語訳)**

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからで  
ある。あなたがたの間に、ねたみや争い  
があるのは、あなたがたが肉の人であっ  
て、普通の人間のように歩いているため

ませんか。

**Ⅱコリ 12:20 (新共同訳)**

12:20 わたしは心配しています。そちらに行ってみると、あなたがたがわたしの期待していたような人たちではなく、わたしの方もあなたがたの期待どおりの者ではない、ということにならないだろう。か。争い、ねたみ、怒り、党派心、そして、陰口、高慢、騒動などがあるのではないだろう。

**ガラ 5:20 (新共同訳)**

5:20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、

**Iコリ 6:1~5 (新共同訳)**

6:1 あなたがたの間で、一人が仲間の者と争いを起こしたとき、聖なる者たちに訴え出ないで、正しくない人々に訴え出るようなことを、なぜするのです。

6:2 あなたがたは知らないのですか。聖なる者たちが世を裁くのです。世があなたによって裁かれるはずなのに、あなたがたにはささいな事件すら裁く力がないのですか。

6:3 わたしたちが天使たちさえ裁く者だということを、知らないのですか。まして、日常生活にかかわる事は言うまでもありません。

6:4 それなのに、あなたがたは、日常生活にかかわる争いが起きると、教会では疎んじられている人たちを裁判官の席に着かせるのですか。

6:5 あなたがたを恥じ入らせるために、わたしは言っています。あなたがたの中には、兄弟を仲裁できるような知恵のある者が、一人もないのですか。

**Iコリ 11:17~22 (新共同訳)**

11:17 次のことを指示するにあたって、わたしはあなたがたをほめるわけにはいきません。あなたがたの集まりが、良い結果よりは、むしろ悪い結果を招いているからです。

11:18 まず第一に、あなたがたが教会で集まる際、お互いの間に仲間割れがあると聞いています。わたしもある程度そういうことがあろうかと思っています。

11:19 あなたがたの間で、だれが適格者

ではないか。

**Ⅱコリ 12:20 (口語訳)**

12:20 わたしは、こんな心配をしている。わたしが行ってみると、もしかしたら、あなたがたがわたしの願っているような者ではなく、わたしも、あなたがたの願っているような者でないことになりはすまいか。もしかしたら、争い、ねたみ、怒り、党派心、そして、ざんげん、高慢、騒乱などがありはすまいか。

**ガラ 5:20 (口語訳)**

5:20 偶像礼拝、まじない、敵意、争い、そねみ、怒り、党派心、分裂、分派、

**Iコリ 6:1~5 (口語訳)**

6:1 あなたがたの中のひとりが、仲間の者と何か争いを起した場合、それを聖徒に訴え出ないで、正しくない者に訴え出るようなことをするのか。

6:2 それとも、聖徒は世をさばくものであることを、あなたがたは知らないのか。そして、世があなたがたによってさばかれるべきであるのに、きわめて小さい事件でもさばく力がないのか。

6:3 あなたがたは知らないのか、わたしたちは御使をささばく者である。ましてこの世の事件などは、いうまでもないではないか。

6:4 それなのに、この世の事件が起ると、教会で軽んじられている人たちを、裁判の席につかせるのか。

6:5 わたしがこう言うのは、あなたがたをはずかしめるためである。いったい、あなたがたの中には、兄弟の間の争いを仲裁することができるほどの知者は、ひとりもないのか。

**Iコリ 11:17~22 (口語訳)**

11:17 とところで、次のことを命じるについては、あなたがたをほめるわけにはいけません。というのは、あなたがたの集まりが利益にならないで、かえって損失になっているからである。

11:18 まず、あなたがたが教会に集まる時、お互いの間に分争があることを、わたしは耳にしており、そしていくぶんか、それを信じている。

11:19 たしかに、あなたがたの中でほん



かはっきりするためには、仲間争いも避けられないかもしれません。

11:20 それでは、一緒に集まっても、主の晩餐を食べることにならないのです。

11:21 なぜなら、食事のとき各自が勝手に自分の分を食べてしまい、空腹の者がいるかと思えば、酔っている者もいるという始末だからです。

11:22 あなたがたには、飲んだり食べたりする家がないのですか。それとも、神の教会を見くびり、貧しい人々に恥をかかせようというのですか。わたしはあなたがたに何と言ったらよいのだろう。ほめることにしようか。この点については、ほめるわけにはいきません。

とうの者が明らかにされるためには、分派もなければなるまい。

11:20 そこで、あなたがたが一緒に集まるとき、主の晩餐を守ることができないでいる。

11:21 というのは、食事の際、各自が自分の晩餐をかってに先に食べるので、飢えている人があるかと思えば、酔っている人がある始末である。

11:22 あなたがたには、飲み食いをする家がないのか。それとも、神の教会を軽んじ、貧しい人々をはずかしめるのか。わたしはあなたがたに対して、なんと言おうか。あなたがたを、ほめようか。この事では、ほめるわけにはいかない。

## 月曜日 7月13日 イエスを中心として

問3 Iコリント 1:10 を読んでください。「心をひとつにし思いを一つにして」〔口語訳「同じ心、同じ思いになって」〕とパウロが言ったのは、どういう意味だと思いますか。

ここで派閥が作られたことは、キリストに対する忠誠を損なう行為でした(Iコリ 1:10)。私たちは神によって、「わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです」〔口語訳「わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに、はいらせていただいたのである」〕(同 1:9)。私たちの主はキリストであり、私たちはキリストを中心としなければなりません。ですから、「キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか」〔口語訳「キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか」〕(同 1:13)という修辭的な問いに対する答えは、はっきりと「いいえ!」です。キリストは分けられていません。私たちのために十字架につけられたのはキリストです。私たちは、「父と子と聖霊の名によって」〔口語訳「父と子と聖霊との名によって」〕(マタ 28:19)バプテスマを受けたのです。

私たちは「キリストの体であり、また、一人一人はその部分です」〔口語訳「キリストのからだであり、ひとりひとりはその肢体である」〕(Iコリ 12:27、強調付加)と、パウロは述べています。体には多くの部分があり、それぞれが独自の機能を持っていますが、それでも一つの体です。体が正しく機能するためには、それぞれの部分が与えられた役割に応じて働かなければなりません。この比喩は、パウロが求めているのは「画一性」ではなく、「一致」であることを示しています。彼は多様性の中の一致を求めているのです。

しかしながら、すべての考えや意見は、私たちの主であるキリストに従わなければなりません。キリストが私たちの主であるという事実は、パウロにとってきわめて重要であり、コリントの信徒への手紙Ⅰ（コリント人への第一の手紙）の冒頭で、彼は繰り返し言及しています（同1:2、7～10）。ですからパウロは、派閥や人間の指導者の問題を扱う前に、まず私たち全員がイエスを主とすることを強調しています。教会は人間の指導者を中心にしていません。クリスチャンはイエスを中心としているのです。

コリントの信徒への手紙Ⅰ（コリント人への第一の手紙）の冒頭でイエスの主権が強調されていることは、「心をひとつにし思いを一つにして、固く結び合いなさい」〔口語訳「同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい」〕（同1:10）という言葉でパウロが何を意味していたのかを理解する助けとなります。「結び合う」と訳されているギリシア語は、「カタルティゾー」という動詞に由来し、何かが本来あるべき状態に回復されることを示唆しています。人間の指導者を中心に派閥が作られるとき、教会内の関係は、本来あるべき状態に回復されねばなりません。そして、それはキリストにおける一致と、それに伴う自己への死を通して実現するのです。

#### 【参考】英語テキストにある文

During the past few decades, some parts of the Seventh-day Adventist Church have emphasized small group Bible studies. What is the difference between cliques and small groups? How can we be careful that small groups do not turn into cliques?

ここ数十年の間、セブンスデー・アドベンチスト教会の一部では、少人数グループによる聖書研究が重視されてきました。「派閥」と「少人数グループ」の違いは何でしょうか。少人数グループが派閥化しないように、どうすれば注意を払うことができるのでしょうか。

20

#### Ⅰコリ 1:9～13 （新共同訳）

1:9 神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

1:10 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心を一つにし思いを一つにして、固く結び合いなさい。

1:11 わたしの兄弟たち、実はあなたがたの間に争いがあると、クロエの家の人たちから知らされました。

1:12 あなたがたはめいめい、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケファに」「わたしはキリストに」などと言っているとのこと。

#### Ⅰコリ 1:9～13 （口語訳）

1:9 神は真実なかたである。あなたがたは神によって召され、御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに、はいらせていただいたのである。

1:10 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることを一つにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。

1:11 わたしの兄弟たちよ。実は、クロエの家の者たちから、あなたがたの間に争いがあると聞かされている。

1:12 はっきり言うと、あなたがたがそれぞれ、「わたしはパウロにつく」「わたしはアポロに」「わたしはケパに」「わたしはキリストに」と言い合っていることである。

1:13 キリストは幾つにも分けられてしまったのですか。パウロがあなたがたのために十字架につけられたのですか。あなたがたはパウロの名によって洗礼を受けたのですか。

**マタ 28:19 (新共同訳)**

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

**I コリ 12:27 (新共同訳)**

12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。

**I コリ 1:2、7～10 (新共同訳)**

1:2 コリントにある神の教会へ、すなわち、至るところでわたしたちの主イエス・キリストの名を呼び求めているすべての人と共に、キリスト・イエスによって聖なる者とされた人々、召されて聖なる者とされた人々へ。イエス・キリストは、この人たちとわたしたちの主であります。

1:7 その結果、あなたがたは賜物に何一つ欠けるところがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れを待ち望んでいます。

1:8 主も最後まであなたがたをしっかり支えて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、非のうちどころのない者にしてくださいます。

1:9 神は真実な方です。この神によって、あなたがたは神の子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに招き入れられたのです。

1:10 さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストの名によってあなたがたに勧告します。皆、勝手なことを言わず、仲たがいせず、心をつにし思いをつにし、固く結び合いなさい。

1:13 キリストは、いくつにも分けられたのか。パウロは、あなたがたのために十字架につけられたことがあるのか。それとも、あなたがたは、パウロの名によってバプテスマを受けたのか。

**マタ 28:19 (口語訳)**

28:19 それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、

**I コリ 12:27 (口語訳)**

12:27 あなたがたはキリストのからだであり、ひとりびとりはその肢体である。

**I コリ 1:2、7～10 (口語訳)**

1:2 コリントにある神の教会、すなわち、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての人々と共に、キリスト・イエスにあってきよめられ、聖徒として召されたかたがたへ。このキリストは、わたしたちの主であり、また彼らの主であられる。

1:7 こうして、あなたがたは恵みの賜物にいささかも欠けることがなく、わたしたちの主イエス・キリストの現れるのを待ち望んでいる。

1:8 主もまた、あなたがたを最後まで堅くささえて、わたしたちの主イエス・キリストの日に、責められるところのない者にして下さるであろう。

1:9 神は真実なかたである。あなたがたは神によって召され、御子、わたしたちの主イエス・キリストとの交わりに、はいらせていただいたのである。

1:10 さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧める。みな語ることをつにして、お互の間に分争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結び合っていてほしい。

**火曜日 7月14日 知恵と成熟**

一般的に、派閥は人間の指導者を過大に評価することから生じます。これは教会の一致と教会員の霊的健康にとってきわめて大きな脅威となります。なぜなら、



クリスチャンの働きに対するゆがんだ見方は、特定の指導者を過大に重視するように教会を仕向け、ほかの指導者に不利益をもたらす可能性があるからです。そのような行動の結果、競争的な雰囲気生まれ、教会を分裂させかねません。さらに、人間の指導者を、クリスチャンとしての私たちのあり方の中心に据えるなら、キリストを私たちの人生における正しい位置から追いやってしまう危険性があります。

**問3** I コリント 3:1~4 を読んでください。パウロはここで、コリントの信徒の霊的な未熟さをどのように描いていますか。

パウロは、霊的な成熟によって信者は神の知恵(I コリ 2:6, 7)を理解するようになると明確に述べています。この神の知恵は、聖霊を通して私たちに伝えられるものであり(同 2:13)、この世の知恵(同 2:6)、すなわち人の知恵(同 2:13)とは対照的です。神の知恵は、キリストの十字架において明らかにされます(同 2:1~4)。より正確に言えば、神の知恵は、キリストの苦しみと死と復活において明らかにされます。したがってパウロは、一致への呼びかけを再開する前に(同 3:1~17)、キリストにおける真の知恵と成熟の必要性を読者が認識することを望んでいるのです。

賢明で成熟したクリスチャンは、霊の人であり、肉の人でもなければ、乳飲み子のようにありません(同 3:1)。彼らは、霊的なことを霊的なことと比較します。なぜなら、「霊的なものによって霊的なことを説明する」〔口語訳「**霊によって霊のことを解釈する**」〕(同 2:13, 14)からです。賢明で成熟したクリスチャンは、乳ではなく、固い物を口にします(I コリ 3:2、ヘブ 5:12 と比較)。「乳を飲んでいてはだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです」〔口語訳「**すべて乳を飲んでいては、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。しかし、堅い食物は、善悪を見分ける感覚を実際に働かせて訓練された成人の取るべきものである**」〕(ヘブ 5:13, 14)。賢明で成熟したクリスチャンは、「わたしはパウロにつく」とか、「わたしはアポロにつく」〔口語訳「**わたしはパウロに**」とか、「**わたしはアポロに**」〕(I コリ 3:4)などと言って、異なる指導者たちを引き合いに出したりしません。

結局のところ、このような指導者たちも、パウロやアポロと同様、「神のために力を合わせて働く者」〔口語訳「**神の共労者**」〕(同 3:9)にすぎません。教会としての私たちは、神の畑、神の建物、神の神殿(神の宮)なのであり(同 3:9, 16, 17)、私たちはみな、キリストを通して神に属しているのです(同 3:11)。

#### 【参考】英語テキストにある文

**What has been your experience with being disappointed by someone whom you had admired? If you have had this experience, what lessons did you learn from it?**

これまで、尊敬していた人ががっかりさせられた経験はありますか。もしそのような経験があるなら、そこからどのような教訓を得ましたか。

### I コリ 3:1~17 (新共同訳)

3:1 兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。

3:2 わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。

3:3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。

3:4 ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとするば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。

3:5 アポロとは何者か。また、パウロとは何者か。この二人は、あなたがたを信仰に導くためにそれぞれ主がお与えになった分に应じて仕えた者です。

3:6 わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。

3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。

3:8 植える者と水を注ぐ者とは一つですが、それぞれが働きに応じて自分の報酬を受け取ることになります。

3:9 わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです。

3:10 わたしは、神からいただいた恵みによって、熟練した建築家のように土台を据えました。そして、他の人がその上に家を建てています。ただ、おのおの、どのように建てるかに注意すべきです。

3:11 イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。

3:12 この土台の上に、だれかが金、銀、

### I コリ 3:1~17 (口語訳)

3:1 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。

3:2 あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

3:4 すなわち、ある人は「わたしはパウロに」と言い、ほかの人は「わたしはアポロに」と言っているようでは、あなたがたは普通の人間ではないか。

3:5 アポロは、いったい、何者か。また、パウロは何者か。あなたがたを信仰に導いた人にすぎない。しかもそれぞれ、主から与えられた分に应じて仕えているのである。

3:6 わたしは植え、アポロは水をそいだ。しかし成長させて下さるのは、神である。

3:7 だから、植える者も水をそそぐ者も、ともに取るに足りない。大事なのは、成長させて下さる神のみである。

3:8 植える者と水をそそぐ者とは一つであって、それぞれその働きに応じて報酬を得るであろう。

3:9 わたしたちは神の同労者である。あなたがたは神の畑であり、神の建物である。

3:10 神から賜わった恵みによって、わたしは熟練した建築師のように、土台をすえた。そして他の人がその上に家を建てるのである。しかし、どういうふうに建てるか、それぞれ気をつけるがよい。

3:11 なぜなら、すでにすえられている土台以外のものをすえることは、だれにもできない。そして、この土台はイエス・キリストである。

3:12 この土台の上に、だれかが金、銀、

宝石、木、草、わらで家を建てる場合、

3:13 おのおのの仕事は明るみに出されます。かの日にそれは明らかにされるのです。なぜなら、かの日が火と共に現れ、その火はおのおのの仕事がどんなものであるかを吟味するからです。

3:14 だれかがその土台の上に建てた仕事が残れば、その人は報いを受けますが、

3:15 燃え尽きてしまえば、損害を受けます。ただ、その人は、火の中をくぐり抜けて来た者のように、救われます。

3:16 あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。

3:17 神の神殿を壊す者がいれば、神はその人を滅ぼされるでしょう。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです。

**I コリ 2:1~14 (新共同訳)**

2:1 兄弟たち、わたしもそちらに行ったとき、神の秘められた計画を宣べ伝えるのに優れた言葉や知恵を用いませんでした。

2:2 なぜなら、わたしはあなたがたの間で、イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決めていたからです。

2:3 そちらに行ったとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。

2:4 わたしの言葉もわたしの宣教も、知恵にあふれた言葉によらず、“霊”と力の証明によるものでした。

2:5 それは、あなたがたが人の知恵によってではなく、神の力によって信じるようになるためでした。

2:6 しかし、わたしたちは、信仰に成熟した人たちの間では知恵を語ります。それはこの世の知恵ではなく、また、この世の滅びゆく支配者たちの知恵でもありません。

2:7 わたしたちが語るのは、隠されていた、神秘としての神の知恵であり、神がわたしたちに栄光を与えるために、世界

宝石、木、草、または、わらを用いて建てるならば、

3:13 それぞれの仕事は、はっきりとわかってくる。すなわち、かの日は火の中に現れて、それを明らかにし、またその火は、それぞれの仕事がいかにどのようなものであるかを、ためすであろう。

3:14 もしある人の建てた仕事があるまま残れば、その人は報酬を受けるが、

3:15 その仕事は焼けてしまえば、損失を被るであろう。しかし彼自身は、火の中をくぐってきた者のようにではあるが、救われるであろう。

3:16 あなたがたは神の宮であって、神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。

3:17 もし人が、神の宮を破壊するなら、神はその人を滅ぼすであろう。なぜなら、神の宮は聖なるものであり、そして、あなたがたはその宮なのだからである。

**I コリ 2:1~14 (口語訳)**

2:1 兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。

2:2 なぜなら、わたしはイエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト以外のことは、あなたがたの間では何も知るまいと、決心したからである。

2:3 わたしがあなたがたの所に行った時には、弱くかつ恐れ、ひどく不安であった。

2:4 そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである。

2:5 それは、あなたがたの信仰が人の知恵によらないで、神の力によるものとなるためであった。

2:6 しかしわたしたちは、円熟している者の間では、知恵を語る。この知恵は、この世の者の知恵ではなく、この世の滅び行く支配者たちの知恵でもない。

2:7 むしろ、わたしたちが語るのは、隠された奥義としての神の知恵である。それは神が、わたしたちの受ける栄光のため

の始まる前から定めておられたものです。

2:8 この世の支配者たちはだれ一人、この知恵を理解しませんでした。もし理解していたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。

2:9 しかし、このことは、「目が見もせず、耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。

2:10 わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます。

2:11 人の内にある霊以外に、いったいだれが、人のことを知るでしょうか。同じように、神の霊以外に神のことを知る者はいません。

2:12 わたしたちは、世の霊ではなく、神からの霊を受けました。それでわたしたちは、神から恵みとして与えられたものを知るようになったのです。

2:13 そして、わたしたちがこれについて語るのも、人の知恵に教えられた言葉によるのではなく、“霊”に教えられた言葉によっています。つまり、霊的なものによって霊的なことを説明するのです。

2:14 自然の人は神の霊に属する事柄を受け入れません。その人にとって、それは愚かなことであり、理解できないのです。霊によって初めて判断できるからです。

**ヘブ 5:12~14 (新共同訳)**

5:12 実際、あなたがたは今ではもう教師となっているはずなのに、再びだれかに神の言葉の初歩を教えてもらわねばならず、また、固い食物の代わりに、乳を必要とする始末だからです。

5:13 乳を飲んでいる者はだれでも、幼子ですから、義の言葉を理解できません。

5:14 固い食物は、善悪を見分ける感覚を経験によって訓練された、一人前の大人のためのものです。

に、世の始まらぬ先から、あらかじめ定めておかれたものである。

2:8 この世の支配者たちのうちで、この知恵を知っていた者は、ひとりもいなかった。もし知っていたなら、栄光の主を十字架につけはしなかったであろう。

2:9 しかし、聖書に書いてあるとおり、「目はまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。

2:10 そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである。

2:11 いったい、人間の思いは、その内にある人間の霊以外に、だれが知っていようか。それと同じように神の思いも、神の御霊以外には、知るものはない。

2:12 ところが、わたしたちが受けたのは、この世の霊ではなく、神からの霊である。それによって、神から賜った恵みを悟るためである。

2:13 この賜物について語るにも、わたしたちは人間の知恵が教える言葉を用いなくて、御霊の教える言葉を用い、霊によって霊のことを解釈するのである。

2:14 生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない。

**ヘブ 5:12~14 (口語訳)**

5:12 あなたがたは、久しい以前からすでに教師となっているはずなのに、もう一度神の言の初歩を、人から手ほどきしてもらわねばならない始末である。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要としている。

5:13 すべて乳を飲んでいる者は、幼な子なのだから、義の言葉を味わうことができない。

5:14 しかし、堅い食物は、善悪を見わけ的感觉を実際に働かせて訓練された成人の取るべきものである。

問5 Iコリント4:1、2を読んでください。この箇所は、人間の指導者に対して持つべき正しい見方について、どんなことを教えていますか。

Iコリント3:1～4でパウロは、派閥を組むのは霊的に成熟していないからだとのめかしているのですが、この話題に触れる前に、「わたしたちはキリストの思いを抱いています」〔口語訳「わたしたちはキリストの思いを持っている」〕(Iコリ2:16)と断言しています。この言葉は、キリストの考え方や行動の仕方を指していると考えられます。言い換えれば、キリストのように考え、行動するとき、信者は「キリストの思い」を抱いている(持っている)ということです。しかし、人生のあらゆる事柄においてこの思いを実践することは、決して容易ではありません。古代ギリシア・ローマ世界では、政治家、哲学者、思想家、宗教指導者の間で、激しい競争が繰り広げられていました。社会的承認を得たいという欲求が、コリントの教会を世俗的な基準に従わせたようです。これは今日の教会にとっても危険なことかもしれません。

問6 フィリピ(ピリピ)2:5～8を読んでください。この箇所は、「キリストの思い」(Iコリ2:16)という言葉を理解するうえで、いかに役立ちますか。

おそらくコリントほどではないにしても、フィリピ(ピリピ)の教会でも同様に分裂が起こっていました(フィリ[ピ]2:1～4)。フィリピ(ピリピ)2:1～8は、キリストのように仕えるには、自己と利己的な野心に死に、その代わりにイエスがなされたように、自分よりも他者を祝福することが求められるのだと教えています。

「キリストに仕える者」(Iコリ4:1)という言葉でパウロが意味したのは、キリストのように仕えるということです。この言葉は、彼らが助手や部下としてキリストに仕えるという思いを伝えている可能性もあります。人間の指導者に対する正しい見方がキリストの指導の模範に基づくべきであることは明らかです。さらにキリストに仕える者は、「管理者」(同4:1、2)として描かれています。管理者とは、他人の財産の管理を託された人のことです。私たちが持っているものはすべて、結局のところ、キリストのものなのです。

フィリピ(ピリピ)2:5～8のメッセージを、祈りつつじっくり考えてください。この箇所は、私たちに対する神の自己否定的な愛について、どんなことを教えていますか。いかにして自己に死に、この愛に倣って生きることができるでしょうか。

Iコリ4:1、2 (新共同訳)  
4:1 こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘めら

Iコリ4:1、2 (口語訳)  
4:1 このようなわけだから、人はわたしたちを、キリストに仕える者、神の奥義



れた計画をゆだねられた管理者と考えるべきです。

4:2 この場合、管理者に要求されるのは忠実であることです。

**I コリ 3:1~4 (新共同訳)**

3:1 兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました。

3:2 わたしはあなたがたに乳を飲ませて、固い食物は与えませんでした。まだ固い物を口にすることができなかったからです。いや、今でもできません。

3:3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。

3:4 ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っているとすれば、あなたがたは、ただの人にすぎないではありませんか。

**I コリ 2:16 (新共同訳)**

2:16 「だれが主の思いを知り、主を教えるというのか。」しかし、わたしたちはキリストの思いを抱いています。

**フィリ 2:1~8 (新共同訳)**

2:1 そこで、あなたがたに幾らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、“霊”による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、

2:2 同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。

2:3 何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手自分をより優れた者と考え、

2:4 めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。

2:5 互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。

2:6 キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、

2:7 かえって自分を無にして、僕の身分

を管理している者と見るがよい。

4:2 この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。

**I コリ 3:1~4 (口語訳)**

3:1 兄弟たちよ。わたしはあなたがたには、霊の人に対するように話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。

3:2 あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない。

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

3:4 すなわち、ある人は「わたしはパウロに」と言い、ほかの人は「わたしはアポロに」と言っているようでは、あなたがたは普通の人間ではないか。

**I コリ 2:16 (口語訳)**

2:16 だれが主の思いを知って、彼を教えることができるか」。しかし、わたしたちはキリストの思いを持っている

**ピリ 2:1~8 (口語訳)**

2:1 そこで、あなたがたに、キリストによる励め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、

2:2 どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。

2:3 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。

2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕

になり、人間と同じ者になりました。  
人間の姿で現れ、  
2:8 へりくだって、死に至るまで、それも  
十字架の死に至るまで従順でした。

のかたちをとり、人間の姿になられた。  
その有様は人と異ならず、  
2:8 おのれを低くして、死に至るまで、し  
かも十字架の死に至るまで従順であられ  
た。

## 木曜日 7月16日 十字架を反映する生き方

派閥を作るべきではない、特に人間の指導者を中心に派閥を形成すべきではないという事実は、指導者を支援してはいけないという意味ではありません。私たちは、教会の働きを率いる人々に感謝し、彼らを助けるべきです。神は、ご自分の働きを地上で行うために人々を任命されます。十字架に象徴される従順さを反映する生き方をしている教会指導者は、耳を傾け、従うに値します。

なぜなら、十字架だけが、あらゆる操作的な支配を覆し、神の御言葉への服従を選ばせる唯一の力を持っているからです。キリストのような指導者は、自分の働きの成功をすべて神に帰します。地上での宣教において、人としてのイエスでさえ、神に栄光を帰されました(ヨハ 17:4)。

パウロによれば、忠実なクリスチャンの働きは、いわゆる「十字架の神学」に基礎を置かなければなりません。十字架は、神の知恵と救いの力の啓示です。それは同時に、人の知恵が愚かであることも示します。Ⅰコリント4:1～13でパウロは、その「十字架の神学」がどのようなものであるかを明らかにしています。彼は第一に、クリスチャン指導者にとっての基準を定めるのは神であることを示し(Ⅰコリ 4:1～5)、第二に、苦しみこそがクリスチャンの真の働きの特徴であるという事実を指摘しています(同 4:9、11～13)。この第二の点は、さらに深く掘り下げる価値があります。

**問7** Ⅱコリント 11:23～28 とコロサイ 1:24 を読んでください。キリストのために苦しむとはどういうことかについて、これらの聖句は私たちに何を教えているでしょうか。

クリスチャン指導者は、イエスの足跡に従い、仲間の兄弟姉妹のために苦しむことをいとわず、必要であればその働きのために命さえもささげます。パウロは、自分自身やアポロのことを「死刑囚」(Ⅰコリ 4:9)と呼んでいます。彼らは、「飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もない」(「口語訳」**「飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしである」**)(同 4:11)状況に遭遇したと描かれています。さらに彼らは、侮辱され、迫害され、中傷され、「今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのものの滓とされ(た)」(「口語訳」**「今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている」**)(同 4:13)のです。またパウロは、皮肉を込めて、「大金持ち(富み

榮えている〔者〕」「王様(王)」「賢い者」「尊敬されている(尊ばれ[ている])〔者〕」(同4:8, 10)とコリントの信徒を呼ぶことで、真のクリスチャン指導者には傲慢さがあってはならないことをはっきりと示しています。傲慢は、教会における分裂の根源だからです(同4:6)。

**【参考】英語テキストにある文**

**How much have you suffered for Christ's sake, whatever your role in the church? What lessons might be found in your answer?**

教会でのあなたの役割がどうであれ、あなたはキリストのためにどれほど苦しみを受けてきましたか。あなたの答えから、どのような教訓が得られるでしょうか。

23

**ヨハ 17:4 (新共同訳)**

17:4 わたしは、行うようにとあなたが与えてくださった業を成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

**I コリ 4:1~13 (新共同訳)**

4:1 こういうわけですから、人はわたしたちをキリストに仕える者、神の秘められた計画をゆだねられた管理者と考えるべきです。

4:2 この場合、管理者に要求されるのは忠実であることです。

4:3 わたしにとっては、あなたがたから裁かれようと、人間の法廷で裁かれようと、少しも問題ではありません。わたしは、自分で自分を裁くことすらしません。  
4:4 自分には何もやましいところはないが、それでわたしが義とされているわけではありません。わたしを裁くのは主なのです。

4:5 ですから、主が来られるまでは、先走って何も裁いてはいけません。主は闇の中に隠されている秘密を明るみに出し、人の心の企てをも明らかにされます。そのとき、おのおのは神からおほめにあずかります。

4:6 兄弟たち、あなたがたのために思い、わたし自身とアポロとに当てはめて、このように述べてきました。それは、あなたがたがわたしたちの例から、「書かれているもの以上に出ない」ことを学ぶためであり、だれも、一人を持ち上げてほかの一人をないがしろにし、高ぶることが

**ヨハ 17:4 (口語訳)**

17:4 わたしは、わたしにさせるためにお授けになったわざをなし遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。

**I コリ 4:1~13 (口語訳)**

4:1 このようなわけだから、人はわたしたちを、キリストに仕える者、神の奥義を管理している者とするがよい。

4:2 この場合、管理者に要求されているのは、忠実であることである。

4:3 わたしはあなたがたにさばかれたり、人間の裁判にかけられたりしても、なんら意に介しない。いや、わたしは自分をさばくこともしない。

4:4 わたしは自ら省みて、なんらやましいことはないが、それで義とされているわけではない。わたしをさばくかたは、主である。

4:5 だから、主がこられるまでは、何事についても、先走りをしてさばいてはいけない。主は暗い中に隠れていることを明るみに出し、心の中で企てられていることを、あらわにされるであろう。その時には、神からそれぞれほまれを受けるであろう。

4:6 兄弟たちよ。これらのことをわたし自身とアポロとに当てはめて言って聞かせたが、それはあなたがたが、わたしたちを例にとって、「しるされている定めを越えない」ことを学び、ひとりの人をあがめ、ほかの人を見さげて高ぶることのないためである。

ないようにするためです。

4:7 あなたをほかの者たちよりも、優れた者としたのは、だれです。いったいあなたの持っているもので、いただかなかったものがあるでしょうか。もしいただいたのなら、なぜいただかなかったような顔をして高ぶるのですか。

4:8 あなたがたは既に満足し、既に大金持ちになっており、わたしたちを抜きにして、勝手に王様になっています。いや実際、王様になってくれたらと思います。そうしたら、わたしたちも、あなたがたと一緒に王様になれるはずですから。

4:9 考えてみると、神はわたしたち使徒を、まるで死刑囚のように最後に引き出される者となさいました。わたしたちは世界中に、天使にも人にも、見せ物となったからです。

4:10 わたしたちはキリストのために愚かな者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっています。わたしたちは弱いが、あなたがたは強い。あなたがたは尊敬されているが、わたしたちは侮辱されています。

4:11 今の今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、

4:12 苦勞して自分の手で稼いでいます。侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、

4:13 ののしられては優しい言葉を返しています。今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのものの滓とされています。

## Ⅱコリ 11:23～28 (新共同訳)

11:23 キリストに仕える者なのか。気が変になったように言いますが、わたしは彼ら以上にそうなのです。苦勞したことはずっと多く、投獄されたこともずっと多く、鞭打たれたことは比較できないほど多く、死ぬような目に遭ったことも度々でした。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りない鞭を受けたことが五度。

11:25 鞭で打たれたことが三度、石を投げつけられたことが一度、難船したこと

4:7 いったい、あなたを偉くしているのは、だれなのか。あなたの持っているもので、もらっていないものがあるか。もしもらっているなら、なぜもらっていないもののように誇るのか。

4:8 あなたがたは、すでに満腹しているのだ。すでに富み栄えているのだ。わたしたちを差しおいて、王になっているのだ。ああ、王になってくれたらと思う。そうであったなら、わたしたちも、あなたがたと共に王になれるであろう。

4:9 わたしはこう考える。神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場する者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。

4:10 わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱いが、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。

4:11 今の今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、

4:12 苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、

4:13 ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようにされている。

## Ⅱコリ 11:23～28 (口語訳)

11:23 彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦勞したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船し

が三度。一昼夜海上に漂ったこともあり  
ました。

11:26 しばしば旅をし、川の難、盗賊の  
難、同胞からの難、異邦人からの難、町  
での難、荒れ野での難、海上の難、偽の  
兄弟たちからの難に遭い、

11:27 苦勞し、骨折って、しばしば眠らず  
に過ごし、飢え渴き、しばしば食わずに  
おり、寒さに凍え、裸でいたこともあり  
ました。

11:28 このほかにもまだあるが、その上  
に、日々わたしに迫るやっかい事、あら  
ゆる教会についての心配事があります。

**コロ 1:24 (新共同訳)**

1:24 今やわたしは、あなたがたのために  
苦しむことを喜びとし、キリストの体で  
ある教会のために、キリストの苦しみ  
の欠けたところを身をもって満たしていま  
す。

たことが三度、そして、一昼夜、海の上  
を漂ったこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の  
難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、  
荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会  
い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜  
を過ごし、飢えかわき、しばしば食物が  
なく、寒さに凍え、裸でいたこともあっ  
た。

11:28 なおいろいろの事があった外に、  
日々わたしに迫って来る諸教会の心配ご  
とがある。

**コロ 1:24 (口語訳)**

1:24 今わたしは、あなたがたのための苦  
難を喜んで受けており、キリストのから  
だなる教会のために、キリストの苦しみ  
のなお足りないところを、わたしの肉体  
をもって補っている。

## 金曜日 7月17日 さらなる研究

参考に、『患難から栄光へ』第2章「十二弟子の訓練」を読んでください。

「神の真理を信じる残りの民の一致と結合は、彼らが真理を持つ神の特別な選民であるという強い確信を世界にもたらすのです。この一致と結合が敵を狼狽させるので、敵はそれを存在させまいと決心するのです。心で信じられ、生活で例示されている現代の真理は、神の民を一つに結びつけ、彼らに強力な感化力を与えます」(『教会への証』第1巻分冊 2・124 ページ)。

「神は、永遠の真理という土台の上に完全に一致して立つ民を導き出される。キリストがこの世のためにご自身をささげられたのは、『良い行いに熱心な民を御自分のものとして清めるためだった』。この精錬の過程は、教会からあらゆる不義と、不和や争いの精神を一掃し、教会を解体するのではなく、築き上げ、目の前の偉大な業に力を集中させることを目的としている。神は、ご自分の民がみな、信仰の一致に至ることを意図しておられるのである。十字架に架けられる直前のキリストの祈りは、ご自分が父なる神と一つであるように、弟子たちも一つとなり、この世が、父なる神がご自分をお遣わしになったことを信じるようになることだった。この最も感動的ですばらしい祈りは、時代を超えて、現代にまで受け継がれている。なぜなら、キリストの言葉は、『彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、お願いします』というものだったからである」(『教会への証』第4巻 17 ページ、英文)。



【参考】 — Ellen G. White, Testimonies for the Church, vol. 4, p. 17.

“God is leading out a people to stand in perfect unity upon the platform of eternal truth. Christ gave Himself to the world that He might ‘purify unto Himself a peculiar people, zealous of good works.’ This refining process is designed to purge the church from all unrighteousness and the spirit of discord and contention, that they may build up instead of tear down, and concentrate their energies on the great work before them. God designs that His people should all come into the unity of the faith. The prayer of Christ just prior to His crucifixion was that His disciples might be one, even as He was one with the Father, that the world might believe that the Father had sent Him. This most touching and wonderful prayer reaches down the ages, even to our day; for His words were: ‘Neither pray I for these alone, but for them also which shall believe on Me through their word.’”

### 話し合いのための質問

- ① 地上での働きが終わりに近づいたとき、イエスは次のように一致を祈り求められました。「すべての人を一つにしてください。……そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります」【口語訳「みんなの者が一つとなるためであります。……それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります」】(ヨハ 17:21)。なぜキリストにおける一致は、世を救うために神が御子を遣わされたという真理の強力な論拠なのでしょう。これと関連して、一致の欠如は、なぜ教会の宣教の妨げになるのでしょうか。
- ② I コリント 4:9～13 を読み、使徒たちがどのように描かれているかに注目してください。使徒たちのこのような描かれ方は、私たちの世界で評価されている指導者たちの特徴と、いかに対照的ですか。この箇所は、神の基準とこの世の基準がいかに異なっているかについて、私たちに何を教えていますか。
- ③ I コリント 4:16 で、パウロはコリントの信徒に、自分に倣う者となりなさいと強く求めています。あなたは進んで人間の指導者を見習いたいと思いますか。指導者を見習うと、その指導者を不当に、あるいは危険なほどに称賛することは、いかに異なるでしょうか。

24

ヨハ 17:21 (新共同訳)

17:21 父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。そうすれば、世は、あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じるようになります。

I コリ 4:9～16 (新共同訳)

4:9 考えてみると、神はわたしたち使徒を、まるで死刑囚のように最後に引き出

ヨハ 17:21 (口語訳)

17:21 父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。

I コリ 4:9～16 (口語訳)

4:9 わたしはこう考える。神はわたしたち使徒を死刑囚のように、最後に出場す

される者となさいました。わたしたちは世界中に、天使にも人にも、見せ物となったからです。

4:10 わたしたちはキリストのために愚かな者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっています。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊敬されているが、わたしたちは侮辱されています。

4:11 この今までわたしたちは、飢え、渇き、着る物がなく、虐待され、身を寄せる所もなく、

4:12 苦勞して自分の手で稼いでいます。侮辱されては祝福し、迫害されては耐え忍び、

4:13 ののしられては優しい言葉を返しています。今に至るまで、わたしたちは世の屑、すべてのものの滓とされています。

4:14 こんなことを書くのは、あなたがたに恥をかかせるためではなく、愛する自分の子供として諭すためなのです。

4:15 キリストに導く養育係があなたがたに一万人数いたとしても、父親が大勢いるわけではない。福音を通し、キリスト・イエスにおいてわたしがあなたがたをもったのです。

4:16 そこで、あなたがたに勧めます。わたしに倣う者になりなさい。

る者として引き出し、こうしてわたしたちは、全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ。

4:10 わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあつて賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。

4:11 この今まで、わたしたちは飢え、かわき、裸にされ、打たれ、宿なしであり、

4:12 苦勞して自分の手で働いている。はずかしめられては祝福し、迫害されては耐え忍び、

4:13 ののしられては優しい言葉をかけている。わたしたちは今に至るまで、この世のちりのように、人間のくずのようににされている。

4:14 わたしがこのようなことを書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、むしろ、わたしの愛児としてさすためである。

4:15 たといあなたがたに、キリストにある養育掛が一万人数あったとしても、父が多くあるのではない。キリスト・イエスにあつて、福音によりあなたがたを生んだのは、わたしなのである。

4:16 そこで、あなたがたに勧める。わたしにならう者となりなさい。

#### 【参考】副読本にある《概要》を転載します。

教会内の派閥形成は、コリントにおける大きな問題の一つでした。このことについて、パウロは深い懸念を示しており、彼が示すように、分派や論争は、福音による回心のメッセージを実践できていないことを露呈しています。深い愛をもって、パウロは一致を懇願しています——それは人間の指導者への忠誠ではなく、人生を変えるキリストの力に根ざした一致です。使徒は、コリントの人々、そして私たちに、神から来る真の知恵を求めるよう勧めています。これこそが、靈的識別力とクリスチャンとしての成熟さに満たされ、信者間の調和へと至る唯一の方法です。パウロはコリント人に、世間の地位や競争への執着を退けるよう訴えています。その代わりに、パウロは彼らに、キリストのような僕となり、お互いへの無私の愛と揺るぎない献身を通して、十字架を中心とした、謙遜な奉仕を具体化していくよう、呼びかけています。